

# 現場から飯場から

「月光仮面のような若者」

小生釜に来て十六年、飯場ぐらしもこの頃は苦にならなくなりました。

毎月労務者渡世、釜にいない時は仲間いたのんで読ませてもらっています。

今日は福知山の山奥の飯場から金ももらわずさっていった月光仮面の様な若者のおたよりを。

七月中頃、私達の飯場に二十四、五才ぐらいの若者が一人でやって来て、私達が現場からもどると飯の最中で有り、その若者はどうどうと入口の席で飯をかつくらしい、それだけでなく、あろうことか酒まで要求する立派さ、私達をいたくカンゲキさせてくれました。

その若者は七日位働いて、親方に皆の日当を考えてくれる様に交渉して意見があわず親方の面をはりとばし、親方が金を払うのもどらず、さっそうと帰っていきました。

ちよっとキマリすぎですけど、この若者、まれに見る快男児でした。ちなみに彼は九州の生まれ、釜ヶ崎五年生だそりです。

「鳥井研一（四三才）お盆のため釜へ帰郷」

## ある飯場の話

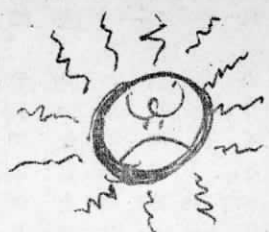
この飯場では手配師を通した釜求人（五日契約）と、スポーツ新聞の広告と両方やっているが、それぞれの求人一人当りにかかるカネを計算してみたところ、手配師の方では一人当り六千円近くに、スポーツ新聞の方では四千円足らずだった。手配師の方はトンコがいるから一人当りが高くなるので、新聞で行く場合はトンコが少いという。なぜかな。

土方をやるという言葉、シムは

耐えるということですね

その代償として

かっぱい酒かのめます



カニカニ照りも人エサのナニ

帰りの身を切る程に心にかうまい

栄えあれ地球調刻家供

（夕マには泉天的ヒ……）

